

平成 27 年度 第 1 回 園芸研究所 主要課題現地検討会（メロン）の開催

5月19日に園芸研究所において、メロンに関する主要課題現地検討会を開催しました。当日は、生産者・JA職員6名、県関係機関21名、農業総合センター23名の計50名が出席し、茨城県産メロンのブランド力アップの取り組みについて意見交換を行いました。出席者から多くの意見が寄せられ、今後のメロンに関わる施策や試験研究・普及の課題解決に向けた、有意義な検討会となりました。

【本県が実施しているメロンのブランド化に向けた取り組み状況】

販売流通課からサン・フルーツ（三越銀座店など）における県オリジナル品種「イバラキング」を核としたブランド商品の販売について、また産地振興課からブランド力強化とPR活動を支援する「いばらき農産物のブランド力強化」事業について説明がありました。

【ブランド商品づくりの状況】

銚田普及センターから現地圃場でのつる上げ栽培による生育状況について、また、園芸研究所から外観品質向上のための仕立て方法等に関する試験状況について、栽培や試験の経過を追いながら、ねらいや問題点を提示しつつ紹介しました。

【圃場検討】

園芸研究所内圃場において、実際の栽培状況を見ながら、仕立て方法などの違いが生育や果実品質に及ぼす影響について確認を行いました。仕立て方法の違いによって生じる作業性や果実温度・ネット発生に与える影響などについて質問が寄せられました。

【総合検討】

平成27年春作の作柄や今後の試験研究のありかたについて検討しました。ブランド化に対するコストを意識した現場からの意見や果実品質の安定化を望む声など、今後の施策・試験研究の取り組みに参考となる意見交換を行うことができ、有意義な検討会となりました。



ブランド化の取り組み状況説明



圃場検討における
試験概要の説明



仕立て方法の違いによる
果実品質への影響を確認